

\\ご当地マドンナとゆく\\

日本全国

ゆるり

アウトドア旅

第19回 千葉県

潮風に涼を求めて ゆるゆる岬ウォーキング

ようやく猛暑のピークが去り、暦のうえでは仲秋。だいぶ過ぎやすくなったものの汗ばむ陽気は続く。涼しい風に吹かれない！ そんな夏と秋の狭間に出かけたのは「大房岬」。海と森、まるで離島に来たような気分を味わった。



今回の旅先は…… アドベンチャーな大房岬

千葉県西南部、浦賀水道に突き出た長さ2kmほどの岬。岬全体は「大房岬自然公園」になっており、遊歩道が整備されている。キャンプやバードウォッチング、釣り、磯遊びなどが一年中楽しめる。雄大な景観に逸話が多く残るアドベンチャーな岬だ。

今回のマドンナ

えみり
鈴木笑里さん

千葉親善大使や初代館山観光大使などを経て、司会やナレーターなど幅広く活躍。館山にある実家の喜多山旅館で若女将業にも奮闘中！



千葉県南房総は、沖合を流れる黒潮の影響を受け、年間通して過ごしやすい気候だ。都心からのアクセスが良く自然も多いため、先として、在宅勤務が主流化しつつある昨今とくに注目されているエリア。海あり山ありの、自然派が憧れる南房総で「二拠点生活」を送っているのが、今回のマドンナ・鈴木笑里さん。「手伝いをしている実家の旅館は海が目の前。東京でも仕事をしていますので行ったり来たりしています」

笑里さんと旅したのは大房岬。「小学生のころにここに泊まってカレイを作ったりしましたね。懐かしいなあ。この周辺の小学生はみんな来ると言います」地元の子供たちは、いわゆる夏の間、初めての大房岬にあるキャンプ場で経験するのだとか。笑里さんも、友人とドライブがてら訪れることもあるそうで、今でもごく身近なアウトドアスポット。大房岬は、散策コースやキャンプ場が整い、バードウォッチングや磯遊びなどが通年楽しめる。散策路の大半は舗装路なので、バギーや車椅子での利用も心配ない。東京ドーム10個分（47・5ha）の広さは、なかなかの歩き応え。岬内は車の乗り入れはできず、徒歩のみ。今回はまず、駐車場からほど



↑大きなマテバシイの木陰でひと休み。根元から複数の幹が分かれ、まるでブロッコリーのように。南の島のガジュマルを彷彿させる。

→雲ひとつない快晴の空。外出を控えるお籠もり生活が続いているだけに、この解放感はたまらない。海を望みながらここでランチも◎。



空、海、原っぱ
もう、サイコー！
解放感が半端ない

→岬の南東部。駐車場からほど近い場所にあるこぢんまりとした浜はプライベート感あり。ただし、遊泳はできないのでご注意！



心地よい潮風に吹かれて
ブラックサンドビーチを歩く

風が気持ちいい！
こんなビーチが
あったんだ～

草木がもりもりで
ジャングルみたい



←増間島を近くで見ようと遊歩道から延びる階段を降りて磯へ。



←岬にはキャンプ場がある！1泊1張630円と、お手頃だ。



↑川にあった島が大雨で流れて定着したと言い伝えの「増間島」。



大房岬唯一の湧き水が流れ落ちる「大房不動滝」。かつて武将が武運を祈願しこの滝で身を清めたとか。小滝ながら水しぶきが涼しい。

食べる

オリジナルびわソフトクリーム
びわピューレ濃厚裏ごしタイプ
400円(税込)



枇杷の果実に、シロップがかかった、いわば枇杷ソフトクリームの最高峰。さっぱりした甘みが口内を席卷！

物産館とみうらマート
南房総市富浦町青木100-1

旅の立ち寄りMEMO

房州産
びわゼリー
350円(税込)

房州産の枇杷のピューレをふんだんに使ったゼリー。おみやげはもちろん、冷え冷えをその場でいただくもよし。

道の駅とみうら枇杷倶楽部
南房総市富浦町青木123-1

おみやげ

房州うちわ2,200円～

江戸うちわで使われる上質な竹は、昔からこの一帯、房州産だった。四代続く太田屋のうちわは一生モノ！

うちわの太田屋
南房総市富浦町多田良1193
☎0470(33)2792



大房岬自然公園
<http://taibusa-misaki.jp/>

この秋、近くの岬をウォーキングしてみてもいい。三方を海に囲まれて離島のような趣もある。多様性に富んだ岬ならではの自然を満喫した。この秋、近くの岬をウォーキングしてみてもいい。

近い砂浜へ。「こんな砂浜があったんですね！初めて来ました」と笑里さん。遠くを大きな船が行き交い、磯には釣りをしている姿がちらほら。アジやイワシ、クロダイなどが釣れる人気のフィッシングスポットだ。浜から少し道を上がると、さらに眺望がひらけた。海へと続く緑の原っぱ。緑と青のコントラストが眩しい。「思いつき走りたくない放感に思わず笑みがこぼれる。原っぱの端には、小さな滝が。瑞々しいミストシャワーを浴びた後は、森を抜けて展望台へ坂を上って行く。海に向こうに三浦半島を望み、再び磯へ急降下する。「ああ、涼しい！やっぱりに海に近いと断然風が気持ちいい」。磯に腰を下ろしてしばしの休憩。岬の散策は、景色がぐるぐると変わり飽きさせない。三方を海に囲まれて離島のような趣もある。多様性に富んだ岬ならではの自然を満喫した。この秋、近くの岬をウォーキングしてみてもいい。



景色は座って楽しみたい
のんびりお茶の時間にしよう

ダイナミックな断崖や海の向こうに霞む半島、大房岬には数々の絶景ポイントがある。そんな景色のいいところでは、腰を下ろしてゆっくり眺めを楽しみたい。密を避けた開放的なオープンエア。潮風に吹かれながら、絶好のドリンクタイムになる。

高機能でいてスマート
温も冷も長時間キープ



ステンレスボトル／FFX-751
6,000円

'07年の発売以来、高い保冷保温力で、登山愛好家から絶大な人気を集めてきた「山専用ボトル」。昨年、容量750mlがラインアップに加わった。アップデートを重ね、現在3世代目。シックなカラーは普段使いにも！



お好みのドリンクをお供に、木陰でランチやお茶を楽しもう。身近な場所でも解放感が味わえる。



6時間経っても熱々の78度C。即席麺を食べ、食後にはお茶を一杯。750mlはそんなちょうど良い量。



グリップ性の高いシリコン製のリングとソコカバー付き。持ちやすく、底部分の傷や衝撃にも対応。

登山家も愛用する
シンプルな構造



二重せんで飲み物の温度が変化しにくい。水漏れも防ぎ手入れもしやすいシンプルなスクリュースェン。



コップに注いで、一杯をじっくり味わう。「もう一杯飲んだら出発しようか」。程よい時間の流れをマネジメントしてくれる。